Kosa Style

こうさ スタイル

男さん (岩下一区)。

わっている。

編集委員長を務める伊藤二實 考え方を学ぶことができまし を行う中で、投稿者の知見や た」と話すのは、 『恩誌(師)』です。編集作業 "ふるさと" は私にとって 「甲佐町文化協会の機関誌 同機関誌の

甲佐の文化振興に寄り添う

昭和52年4月創刊。 などを紹介することを目的に、 会員からの投稿や会員の活動 00号発刊の節目を迎えた。 『ふるさと』は、 14歳で失聴して以来、 文化協会 10月に第

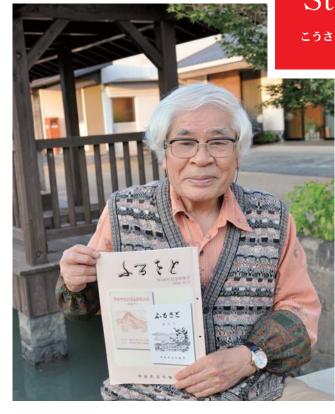
 \triangleleft

がありました」と話す伊藤さ 文章を考えることや書くこと や新聞をよく読んでいました。 んは創刊当時から編集に 編集作業にも興味

えました」と発刊当時の思い 異なる会員同士が交流するこ とで新しい活動も拡がると考 の活動を発表し合い、分野の 稿者の皆さんです。それぞれ 『ふるさと』の主役は、 携 興にこれからも寄り添ってい 興に貢献していければ」と話 号内容を充実し 編集委員の協力のおかげで毎 す伊藤さんは、 道活動を通して甲佐の文化振 を語る。「今後は、 を留守にすることも多く、 でき感無量です。 の支えにも感謝です」と感想 くの投稿者や賛助会員の支援 00号発刊を迎えることが これまでを振り返って 甲佐の文化振 家業のお店 自身の書 つつ、

妻

第



伊藤 二實男さん Ito Fumio

[岩下一区]

を語る伊藤さん。

いとう ふみお / 甲佐町文化 協会機関誌「ふるさと」編集 委員長。自身の書道教室で指 導を行う傍ら、本町の文化振 興に尽力している。

> 数多く参加されています。 今では町外の方も会員として 部の方々との交流も拡がり、 かけで他団体との交流につな 「ふるさと」 発行を重ねるにつれて外 への投稿がきっ

四回 こうさ

びを語る。

恵で実現できたことは楽し

編集委員の皆さんの協力と知 を練るのは苦労も多いですが き、手紙をもらったようでう

れしくなります。

また、企画

関誌がつなぐ縁を思い起こす。 がったこともあります」と機

寄せられた投稿を読むと

かったです」と編集のよろこ

2018年(平成30年)11月号 通巻592号